

福井県河川におけるヨシノボリ類5種と カワヨシノボリの分布 (続報)

松田隆喜*・加藤文男**

Distribution of freshwater gobies, five species of the genus *Rhinogobius*
and *R. flumineus* in the rivers of Fukui Prefecture. (Continued report)

Takaki MATSUTA* and Fumio KATO**

はじめに

昨年の報告(加藤・松田,1994)で、福井県内の河川におけるヨシノボリ類とカワヨシノボリの分布の全体像が明らかになった。本年は、主として未調査の嶺北の小河川や嶺南の若狭湾に注ぐ河川を調査した(図1)結果、新しくヨシノボリ類の分布が確認されたので報告する。

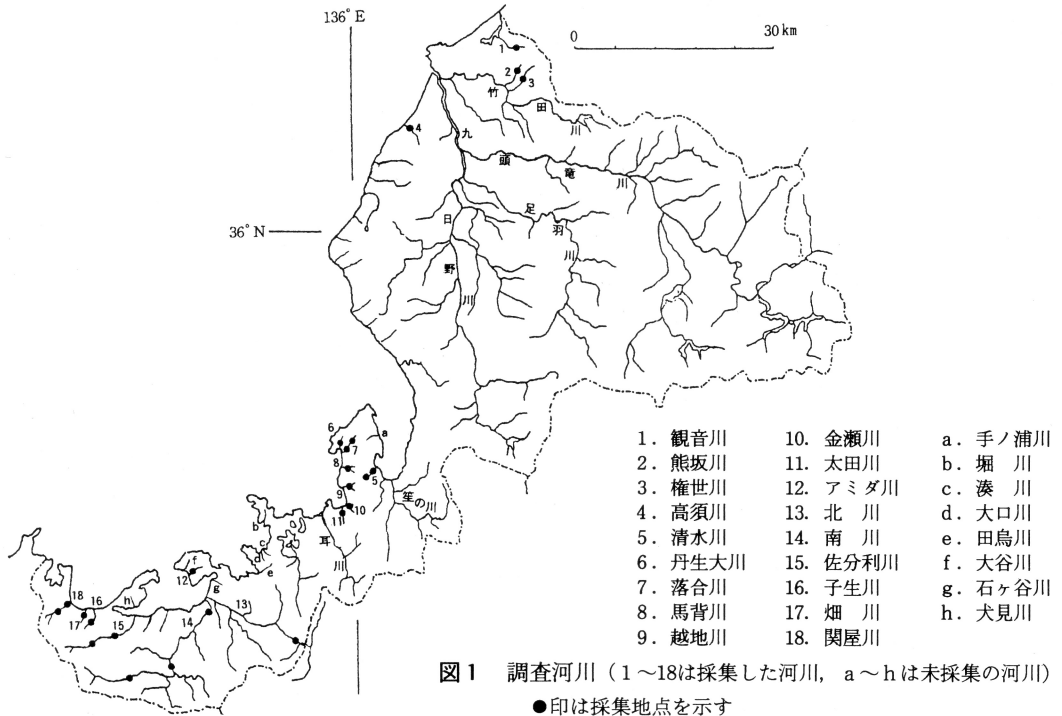


図1 調査河川(1~18は採集した河川, a~hは未採集の河川)

●印は採集地点を示す

* 福井県立坂井農業高等学校(坂井町宮領57-5)

** 福井陸水生物研究会(鯖江市本町2丁目3-11)

材料及び方法

採集はたも網を用い、同時に潜水観察も行い、できるだけ多くの河川で各種類を確認できるように努めた。材料は約10%ホルマリン液に固定して計測に用いた。

斑紋による判別には採集時の生きた材料を用い、かつカラー写真に撮り記録に残した。

種の同定には、日本産魚類検索（中坊徹次編,1993）と日本の淡水魚（川那部浩哉・水野信彦監修,1989）などを参考とした。ヨシノボリ類の各種（斑紋型）も、上記の図鑑に従った。

結 果

各地点で採集した結果を表1に示し、それぞれの分布状況を述べる。

表1 ヨシノボリ類とカワヨシノボリの採集地（○印）

河川名	採集地	採集月日	河川型	シマヨシノボリ	オオヨシノボリ	クロヨシノボリ	ルリヨシノボリ	トウヨシノボリ	カワヨシノボリ
観音川	畝市野々	'95. 8. 8	Aa-Bb					○	
竹田川	熊坂川	笹岡	Bb	○					
	権世川	上野	Bb	○					
高須川	大道橋	'95. 8.14	Bb	○					
敦賀半島	清水川	縄間	Bb	○			○		
		1 km上流	Aa						
	丹生大川	丹生	河川改修	○					
	落合川	500m上流 1 km上流	'95. 8. 1	Bb	○		○	○	
'95. 8. 1			Aa-Bb			○			
馬背川	1 km上流	'95. 8. 1	Aa-Bb	○			○		
		'95. 8. 1	Bb	○					
越地川	菅浜	'95. 8. 1	Bb	○					
金瀬川	佐田	'95. 8. 3	下流域	○					
太田川	佐田	'95. 8. 3	Bb	○			○	○	
アミダ川	堅海	'95. 8. 3	下流域	○					
北川	熊川	'95. 8.29	Bb		○				
南川	湯岡 三重 下 井上	'95. 8. 3	Bb-Bc	○					
		'95. 8.28	Bb	○	○				
		'95. 8.28	Bb	○	○				
		'95. 8.28	Bb	○	○				
佐分利川	父子 石山	'95. 8.17	Bb	○					
		'95. 8.17	Bb	○	○				○
子生川	坂田	'95. 8.17	Bb	○					
畑川	立石	'95. 8.17	河川改修	○					
関屋川	三本松 関屋	'95. 8.17	Bb	○					
		'95. 8.17	河川改修	○					

【嶺北地方の河川】

(1) 観音川（流路 7.3km）

県の北端近くにあり、細呂木で北潟湖に注ぐ河川である。中流域上部の畝市野々（Aa-Bb型）でトウヨシノボリ（*Rhinogobius* sp. OR）が分布していた。

(2) 竹田川の支流

熊坂川（7.1km） 権世川（5.3km）

熊坂川中流域の笹岡（Bb型）と権世川中流域の上野（Bb型）でシマヨシノボリ（*Rhinogobius* sp. CB）が分布していた。

(3) 高須川（4.8km）

福井市の北西部を流れる川で、三里浜の南部で日本海に注ぐ。下流域の市ノ瀬（Bb）でシマヨシノボリが分布していた。

【嶺南地方の河川】

(4) 敦賀半島の小河川

A



B

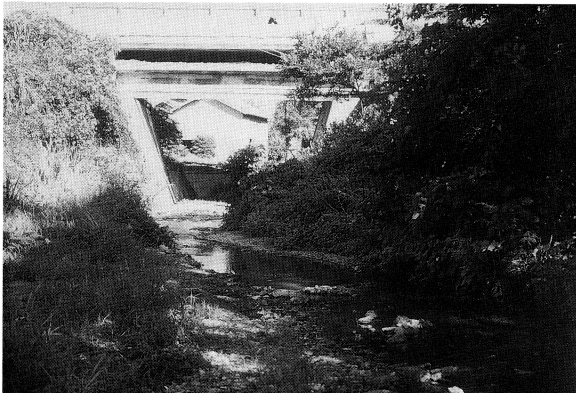


図2 ヨシノボリ類の河川環境

A：落合川（河口より1km上流）'95.8.1

B：太田川（佐田）'95.8.29

清水川(2.0km) 丹生大川(1.0km) 落合川(2.5km 図2A) 馬背川(3.0km)
越地川(5.0km)

清水川は半島の東側へ注ぎ、落合川と馬背川、越地川、丹生大川はそれぞれ西側へ注ぐ極小
河川である。清水川下流域の縄間(Bb型)ではシマヨシノボリが、上流域(Aa型)ではルリヨ
シノボリ(*Rhinogobius* sp. CO)が分布していた。落合川の下流域(Bb型)では、シマヨシ
ノボリとクロヨシノボリ(*Rhinogobius* sp. DA)、ルリヨシノボリの3種が、中流域(Aa-Bb
型)ではクロヨシノボリがそれぞれ分布していた。馬背川の中流域(Bb型)ではシマヨシノボリ
とルリヨシノボリの2種が分布していた。丹生大川と越地川の各河川ではシマヨシノボリが分
布していた。

(5) 金瀬川(1.0km) 太田川(2.0km 図2B)

敦賀半島の西側の付け根に位置する極小河川である。金瀬川の下流域ではシマヨシノボリが
分布していた。太田川下流域の今市(Bb型)にはシマヨシノボリとルリヨシノボリ、トウヨシ
ノボリの3種が分布していた。

(6) 内外海半島の小河川

アミダ川(1.2km)

小浜市街の北にある外内海半島のアミダ川下流域の堅海(Bb型)ではシマヨシノボリのみが
分布していた。

(7) 北川(28.0km) 南川(38.5km) 佐分利川(14.5km)

北川の中流域の上部にはオオヨシノボリ(*Rhinogobius* sp. LD)が分布していた。南川の
中流域ではシマヨシノボリとオオヨシノボリの混生域がみられ、下流域ではシマヨシノボリ
のみが生息していた。また、佐分利川の中流域ではシマヨシノボリのみ分布であったが、中流
域上部ではシマヨシノボリとオオヨシノボリの他にカワヨシノボリ(*Rhinogobius flumineus*)
が分布していた。

(8) 子生川(5.0km) 畑川(2.1km) 関屋川(6.0km)

子生川は大飯郡高浜町の中央を、関屋川はその西部を、畑川は両河川の間を流れ、若狭湾に
注いでいる。子生川中流域の坂田(Bb型)、畑川中流域の立石(Bb型)、関屋川下流域の三本松
(Bb型)と中流域の関屋(河川改修)でそれぞれシマヨシノボリが分布していた。

まとめ

シマヨシノボリが広域分布種であり、観音川を除くすべての河川で確認された。この種は大河川
から小河川まで河川の大きさに関係なく最も普通に分布することがわかっている(加藤・松田、
1994)。今回の調査は流程が数kmという極小河川が多かったが、ここでも同様の結果であった。

クロヨシノボリ(図3A)は落合川で生息が確認された。これまでにこの種が確認された居倉大
川、梅浦川、道口川(加藤・松田、1994)は、いずれも海岸線が海に突出した越前岬付近にあり、
対馬暖流の影響を最も受け易い河川である。落合川も敦賀半島の先端近くに位置しているため、対

馬海流の影響を受け易いと考えられる。このことは、クロヨシノボリがヨシノボリ類の中でも最も高温性を示し、高塩分の海域の流入河川を好む種である（水野,1976；水野ら,1982）という説と一致している。

また、クロヨシノボリは他のヨシノボリ類に比べ極小河川に集中する傾向が強い（川那部ら, 1989）。現在のように、極小河川がほとんど河川改修により三面張りにされていく状況のもとでは、本種が生息できる環境はますます狭まっていくものと考えられる。その中にあるのは、落合川はこれまでにクロヨシノボリを確認したどの河川よりも河川環境は良好で、比較的流量も多く、確認された個体数も多かった。この種が生息していくためには、今後もこの環境を維持していくことが望まれる。

なお、落合川以外にも、若狭湾の敦賀半島、常神半島、内外海半島、大島半島の河川を調査した。しかし、河川の改修により、魚の住める環境とはほど遠いものになっていた。そのためかヨシノボリ類が確認できたところは落合川の他に馬瀬川、越地川、清水川、丹生大川、アミダ川の5河川だけであった。

トウヨシノボリ（図3B～D）は、新たに2河川で生息が確認された。1つは福井県北部の観音川であり、もう1つは南西部の太田川である。これまでにトウヨシノボリが確認できたのは、九頭竜川上流のダム湖（九頭竜ダム湖と真名川ダム）の流入河川の2ヶ所であり、琵琶湖産の稚鮎かフナに伴う移入魚であると考えられている（加藤・松田,1994）。同様に観音川は北潟湖に注ぐ河川であり、フナやコイの放流によって混入してきた可能性も考えられる。しかし太田川は、稚鮎などの放流を行っていないことから自然分布の可能性が高い。

カワヨシノボリについては佐分利川付近の河川を調査したが確認できなかった。

これまでの調査結果から、福井県におけるヨシノボリ類の分布についてまとめると以下のようになる。

1. シマヨシノボリは、河川の大小を問わず広く分布していた。
2. クロヨシノボリは居倉大川、梅浦川、道口川、落合川の4河川で分布していた。
3. トウヨシノボリは九頭竜ダム湖と真名川ダムの流入河川の他に、北潟湖への流入河川である観音川と太田川の4河川で分布していた。太田川は自然分布地の可能性が高い。
4. カワヨシノボリは佐分利川のみ分布し、それ以外の河川は確認できなかった。

引用文献

- 加藤文男・松田隆喜, 1994: 福井県河川におけるヨシノボリ類5種とカワヨシノボリの分布. 福井市自然史博物館研究報告, (41) 63-76.
- 水野信彦, 1976: ヨシノボリの研究Ⅲ. 四国と九州での4型の分布. 生理生態, 17(1・2) 373-381.
- 水野信彦・大北祐治, 1982: ヨシノボリの研究Ⅴ. 4型の地理的分布と相互作用. 淡水魚, (8) 27-39.
- 川那部浩哉・水野信彦編・監修, 1989: 日本の淡水魚. 山と溪谷社.
- 中坊徹次編, 1993: 日本産魚類検索, 東海大学出版会. pp.1079-1082.

追記 その後、2地点でトウヨシノボリの生息を確認したので記しておく。

〔'95.10.13 三方湖水系 鱒川(藤井), '95.10.22 竹田川支流 宮谷川(新富)〕

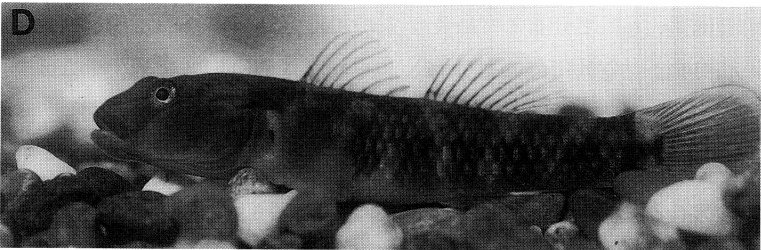
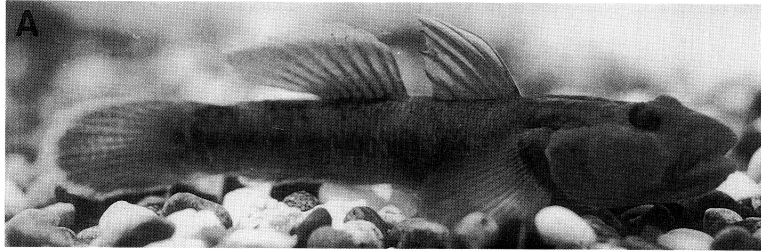


図3 福井県のヨシノボリ類2種

- A: クロヨシノボリ, 落合川, 全長7.6cm, '95.8.1 採集
B: トウヨシノボリ, 観音川(北潟湖流入河川), 8.0cm, '95.8.8 採集
C: トウヨシノボリ, 観音川(北潟湖流入河川), 7.7cm, '95.8.8 採集
D: トウヨシノボリ, 太田川, 5.8cm, '95.8.3 採集